

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

鳥羽市

令和3年10月

本年5月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果が、8月31日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本市における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における下記の「5. 調査結果の取扱い」の「(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。

5. 調査結果の取扱い

文部科学省は、以下のとおり、調査結果を示し、公表するとともに、各教育委員会、学校に対して、調査結果等を提供する。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第17号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当てることとする。

調査の概要

・調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全市的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する目的で実施されています。

・調査の対象および実施した公立学校数・児童生徒数

区分	小学校第6学年	中学校第3学年
学校数	7校	5校
児童生徒数	119名	129名

1 教科に関する調査の結果・分析

(1) 各教科の平均正答率

(単年) 鳥羽市と三重県の正答率は小数点以下を四捨五入したもの

小学校	国語	算数
鳥羽市	55.0	61.0
三重県	64.0	69.0
全 国	64.7	70.2

中学校	国語	数学
鳥羽市	66.0	62.0
三重県	63.0	58.0
全 国	64.6	57.2

小学生は、知識の定着、活用力等に課題がみられます。

多様な問題に積極的に取り組むとともに、発表や話し合いといったアウトプットの場を与えるなどして、「考える力」と「活用力」を向上させ取組をすすめているところですが、「分かった」ことを確かめることによる知識や活用力の定着が必要であると考えられます。児童生徒が「分かった。」と言っていることを、適用問題を解かせたりするだけでなく、様々な媒体を用いて書かせたり発言させたりするなど、適切な形でふりかえることが大切だと考えます。学習したことを児童生徒が自分の言葉で表すことで、学力の定着や伸長につながっていくといえます。

このような活動を効果的に取り入れることで、学習に対してより前向きな気持ちを養えると考えます。特に小学生は、あきらめることなく取り組む姿勢とともに、楽しく学ぶ気持ちを伸ばしていくことで、よりよく学ぶ力にもつながるといえるでしょう。

中学生は、平均正答率が県平均も全国平均も上回っています。これまでの取組の成果が表れているといえます。

定期テスト等で多様な問題に取り組む機会が多く、初めての問題に対しても積極的に取り組むことができているといえます。中学校の指導者は普段から入試問題等の分析とともに、それを生かした問題作成及び指導を行っているため、改善がさらに進んだものと考えられます。これらの力を伸ばすことに、小学校で身に付けた学習への取り組み姿勢などが寄与しているといえます。

(2) 鳥羽市における特徴的な傾向

<小学校国語>

- ・全問題の正答率 55% (三重県 64%, 全国 64.7%)
- ・無回答率 4.7% (前回は 5.3%) (三重県 3.7%, 全国 4.3%)

○強み

- 1 文の中における主語と述語の関係を捉えること
 - ・文中にて示された述語に対応する主語を、適切に選択することができています。
- 2 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと

○弱み

- 1 文章の内容についての読み取り
 - ・説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約すること
 - ・文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見つけたりすること
- 2 必要な情報を用いての記述
 - ・問題に示された条件を満たして記述すること
 - ・話の内容が明確になるようにスピーチや文章全体の構成・展開を考えたり、資料を活用して自分の考えが伝わるように話したりすること

■全体の傾向から見られる課題と対策

記述問題においては、無回答率も他の問題に比べて高くなりました。全体の内容から読み取れることを整理したり、短くまとめたりするなど、まとまった文章を一読して読み取ることを意識した指導を行うことも必要だと思われます。

問題文を読み取り、ある程度理解はできていても、条件を満たして記述することができず正解にたどり着けない児童の割合が高くなっています。

問題文の一部分のみを捉えて解答してしまっていると思われます。また、問われていることと、答えるべきことを明確に捉えきれていないことが要因として考えられます。

自らの解答が条件を満たしているかどうかを確かめる力が必要です。問われていること、答えるべきことを捉えられるようにする活動が考えられます。今回の結果を受けて、さらに授業改善に力を入れていくことが望まれます

＜小学校算数＞

- ・全問題の正答率 61%（三重県 69%，全国 70.2%）
- ・無回答率 3.9%（前回は 2.1%）（三重県 2.6%，全国 2.6%）

○強み

- 1 データを二次元の表にまとめる
 - ・データを二つの観点から分類整理し，表に表すこと
- 2 速さと道のりを基に，時間を求める式に表す
 - ・速さ，道のり，時間について，数量の関係を捉えること
- 3 棒グラフ等の読み取り
 - ・棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ること
 - ・問題に示された情報を二次元の表に分類整理すること

○弱み

- 1 長い問題の文章を読み取ったり，記述をしたりして答えること
 - ・棒グラフの情報を読み取ってはできたが，そこから出た課題について，答えること
 - ・日常生活の問題を解決するために示された場面を解釈し，必要な数量やその関係を捉え，数学的に表現・処理をすること
- 2 図形の構成の仕方に着目して計量する
 - ・図形の面積の基本的な求め方，基本的な性質についての理解
 - ・図形を構成する要素などに着目し，図形の構成の仕方を捉えて，筋道を立てて説明すること
 - ・面積の計算について，性質を理解したり，公式等を使いこなしたりする力の定着

■全体の傾向から見られる課題と対策

文章量の多い問題やグラフから，必要な情報や数量を読みとることができていないといえます。一人ひとりが問われていることを把握して，答えるべきことを捉える取組が必要だと考えられます。

数学的な性質や公式を使いこなすことに課題がありますが，「強み」で示したように，数量の関係を捉える力がついてきています。繰り返しの学習とともに，図や式を用いながら説明する機会を設けることなどを日常的に実施することで力を伸ばしていけると考えられます。

基礎と応用を分断するのではなく，場面が示す文脈の中で，知識を活用していくといった指導方法が大切だと考えます。また，日常生活の事象に関した問題を多く取り入れることも大切だと考えます。適用問題に取り組むだけでなく，理解できたことを発表したり振り返りに書いたりすることで説明することも効果があると考えます。

＜中学校国語＞

- ・全問題の正答率 66%（三重県 63%，全国 64.6%）
- ・無回答率 3.3%（前回 3.9%）（三重県 4.3%，全国 4.4%）

○強み

- 1 効果的な話し合い，分かりやすい文章についての理解
 - ・話し合いの話題や方向を捉えて，的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること
 - ・書いた文章を読み返し，語句や文の使い方，段落相互の関係などに注目して，読みやすくわかりやすい文章にすること
 - ・文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げること
- 2 文章を読み取り，自分の考えを持つこと
 - ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えを持つこと
- 3 漢字の読み
 - ・「詳細」「伸（ばして）」を文脈に即して，正しく読むこと
 - * 「伸（ばして）」：鳥羽市中学生の正答率は，100%でした。

○弱み

- 1 文中で使われている言葉の意味を文脈から読み取ること
 - ・「呼吸を飲み込んだ」の意味を，文脈に即して捉えること
 - 「呼吸」には，「息を吸ったり吐いたりすること」などの意味もありますが，ここでは，「コツ」，「物事をうまく行う要領」という意味で用いられていることが理解できていないのではないかと考えられます。
- 2 条件を満たして，相手に失礼のない文章を書くこと
 - ・相手に失礼のないように適切な内容を加えて書くこと
 - 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように，相手や場に応じた言葉遣いで必要な内容を書くことはできています。

■全体の傾向から見られる課題

平均正答率が県平均も全国平均も上回っています。これまでの取組の成果が表れているといえます。

話し合いの話題や方向を捉えて，的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめることができている生徒が多いといえます。日頃から，話し合い等が目的をもって進むように，司会者が参加者に発言を促したり，参加者の発言を整理したりすることが習慣化されており，その中で一人ひとりに力が定着してきているといえます。

また，様々な場面において，自他の文章について下書きを推敲したり，文章を直した意図について考えたり，構成を工夫したりするといった活動をとおして，自分の考えを広げる学習も進められているといえます。

今後も，参加者が課題の解決に向かうように進め方を提案したり，話し合いが効率よく進むように協力したりするとともに，様々な学習場面において，個々の力を伸ばすことに注力し続けていくことが重要です。

＜中学校数学＞

- ・全問題の正答率 62%（三重県 58%，全国 57.2%）
- ・無回答率 7.3%（前回は 3.3%）（三重県 9.9%，全国 11.2%）

○強み

- 1 データを読み取ったり，条件を用いたりするなどして，記述による説明をすること
 - ・式を読み取るなどして，事柄が成り立つ理由を説明すること
 - ・事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明すること
 - ・データから判断したことを数学的な表現で説明すること
- 2 知識・技能の定着
 - ・式に表したり方程式を解いたりする技能
 - ・関数や面積，グラフなどについての数学的知識
 - ・中央値を求める，ヒストグラム等を読み取るといった技能

○弱み

- 1 問題文が長く，解答したことを次の問いにつなげて解いていくこと
 - ・平行線や角の性質を理解し，それに基づいて図形の性質を確かめ説明する問題において，いつでも成り立つ図形の性質を見出して数学的に説明すること

■全体の傾向から見られる課題

平均正答率が県平均も全国平均も上回っています。これまでの取組の成果が表れているといえます。

記述式問題の正答率が高くなっています。小学校からの積み上げと，それをしっかりと生かしながら弱点を克服する，ていねいな取組の成果といえます。

全体的な底上げができています。基礎的な問題を中心に正答率が上がっていますので，さらに思考が必要な問題に対しても，取り組んでいける土台ができてきているといえます。

問題文が長く，解答したことを次の問いにつなげて解いていくことに，いくつかの課題がみられます。このような問題においては，問いが進むにつれて無回答率が高くなる傾向があります。ひとつの問題において分かったことを次の課題に生かしたり，現在取り組んでいる問題を解くために，前の問題を参考にしたりするといった，学習のつながりを意識した指導が大切であると考えます。

問題文を読み取る力を伸ばすには，普段の授業から，問われていること，答えるべきことを見出す力をつけていくことが大切だといえます。このようなことをはじめ，様々な取組をとおして，生徒の力が伸びているといえます。

(3) 無解答率の状況

問題に対して無回答が多いほど、無回答率は高くなります。

R 3	小 国語	算数	中 国語	数学
鳥羽市	4.7	3.9	3.3	7.3
三重県	3.7	2.6	4.3	9.9
全 国	4.3	2.6	4.4	11.2

中学校のすべての教科において無回答率が低いといえます。普段からあきらめずに取り組む指導の成果であると考えられます。

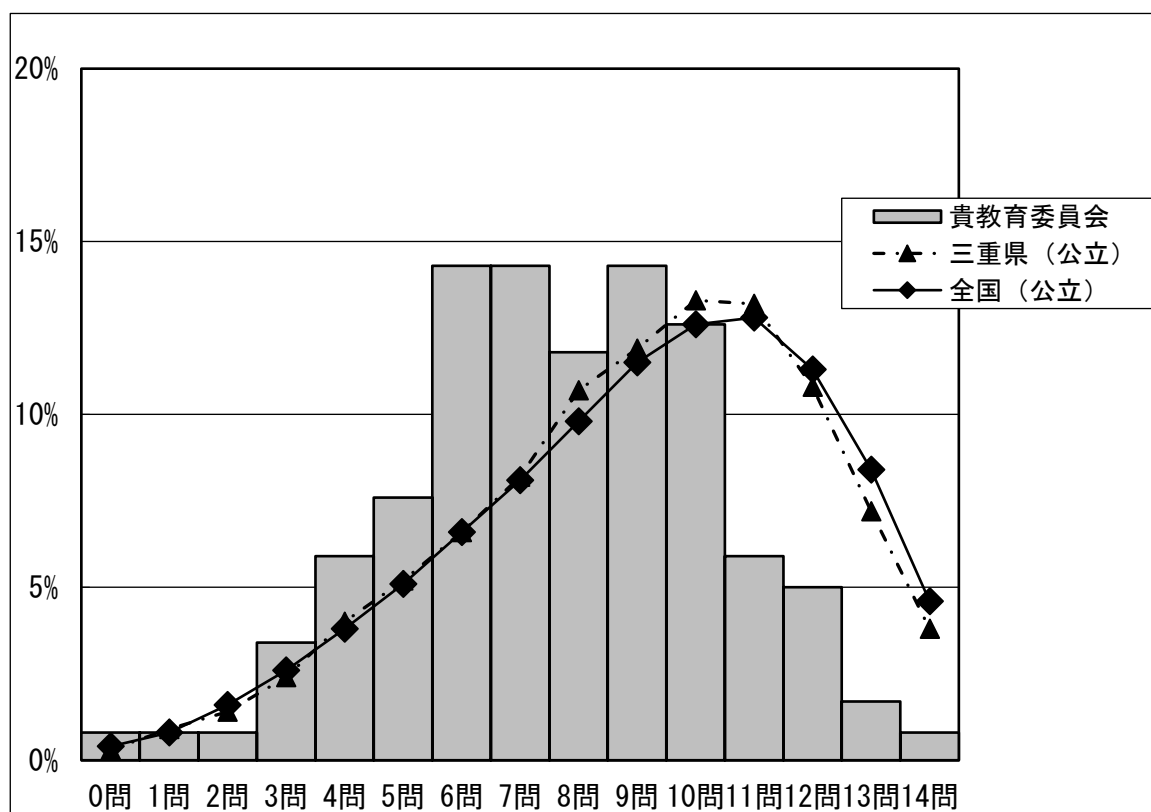
小学校においては、県や全国と比較して、無回答率が高くなっています。記述問題（文章を書いたり、解答を言葉や数、式を使って説明したりする）においては、比較的正答率の高い問題についても、無回答率が高い傾向があります。書く力の底上げのために、「書く」ということの前に、つまりながらも「話す」ことで書く内容を整理させるような活動も考えられます。

また、考えるための知識の定着と、日常的に、身につけた知識を使って考えたり、まとめたりする学習の積み重ねも大切だと考えられます。

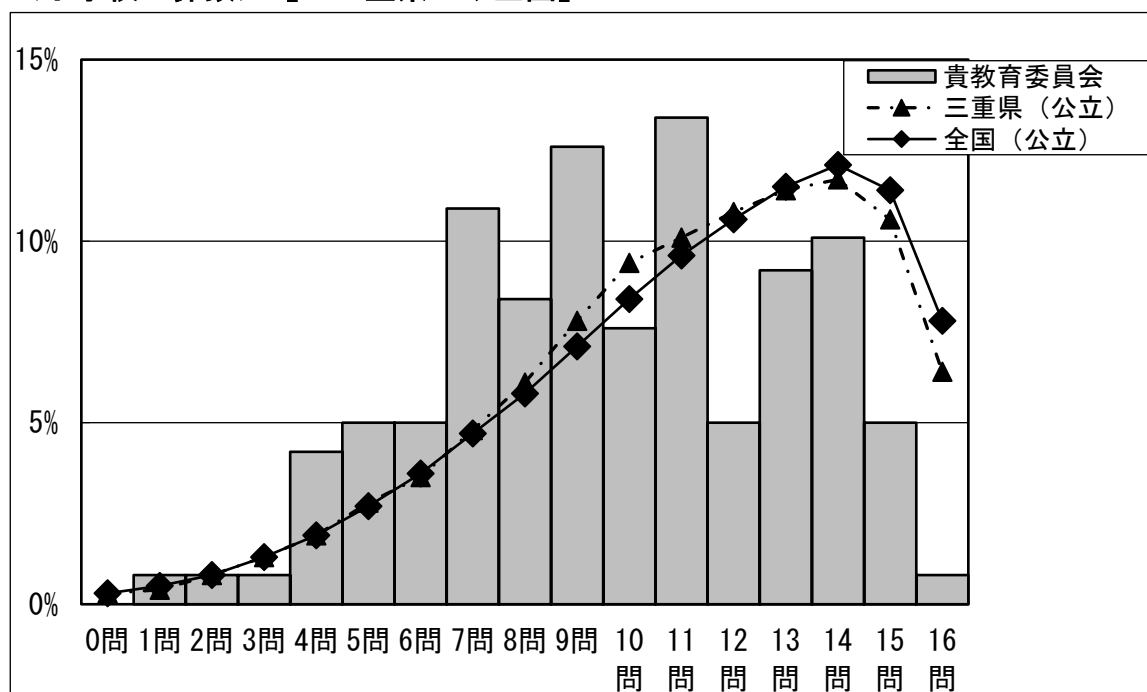
(4) 正答数の分布状況【▲三重県 ◆全国】

小学校は、全国・県と比較して、分布が左にずれています。全国学力・学習状況調査において問われている学力について、一人ひとりの力を少しずつ伸ばしてやることが重要だといえます。

＜小学校・国語＞ 【▲三重県 ◆全国】

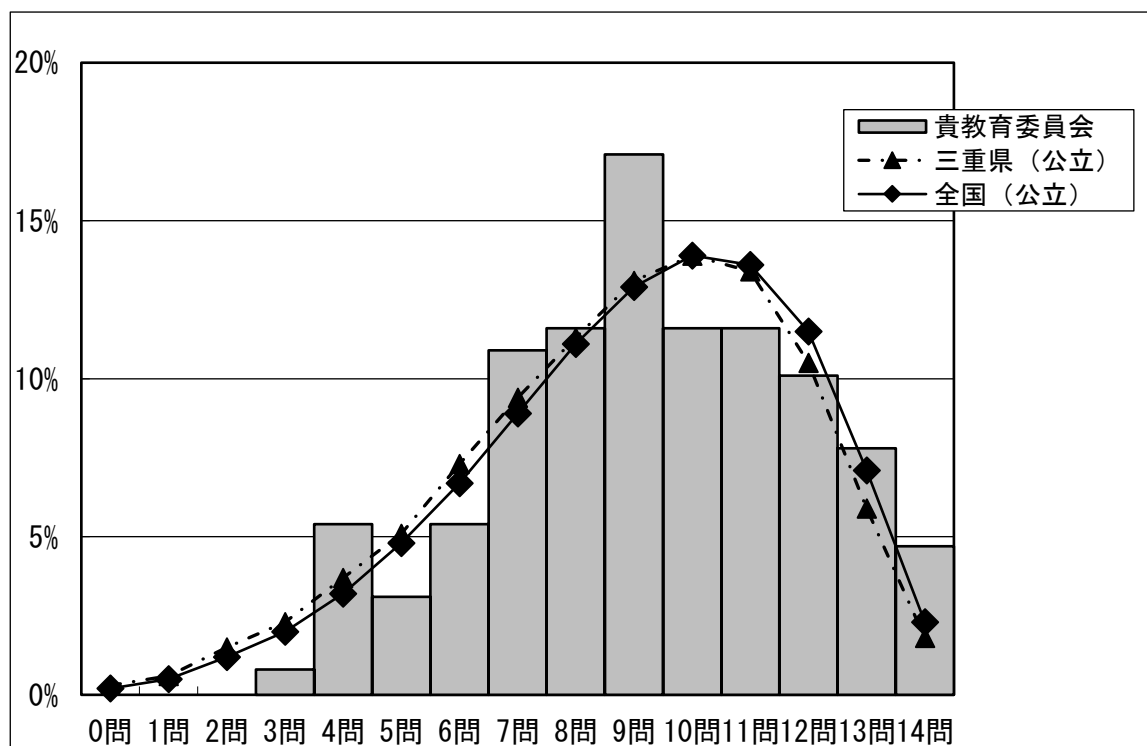


<小学校・算数>【▲三重県 ◆全国】

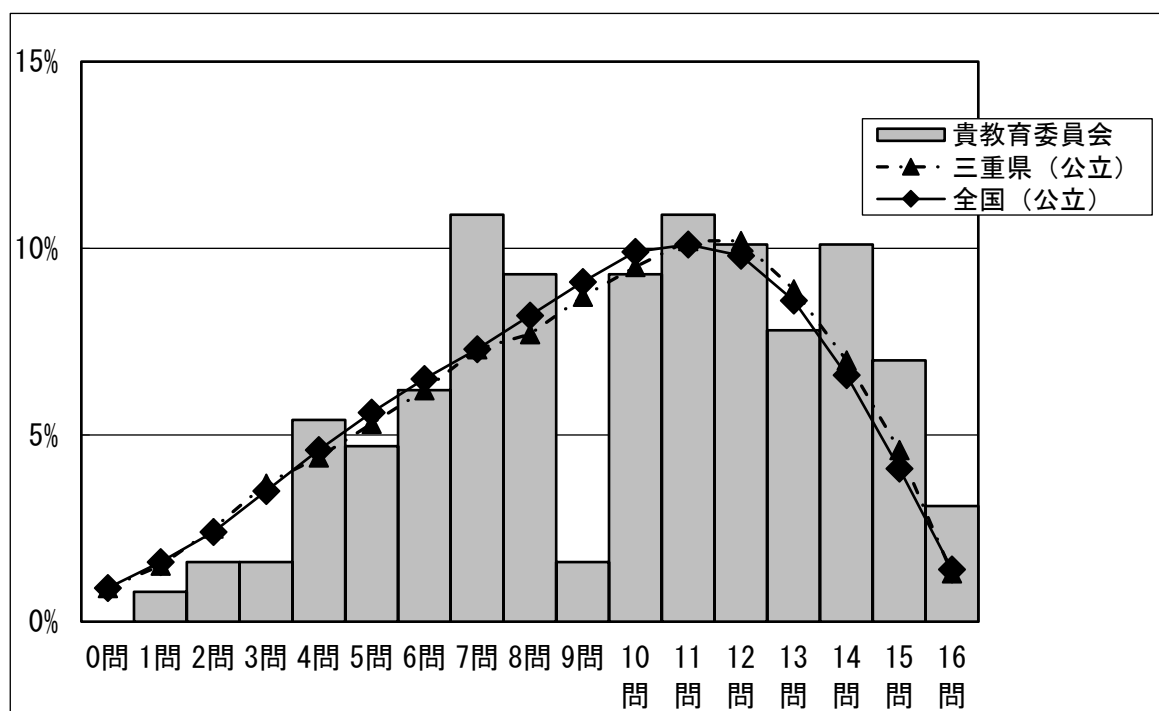


中学校は、全国・県と比較して、ほぼ同じ形の分布となっています。中間層の力を伸ばすことが課題であると考えられます。

<中学校・国語>【▲三重県 ◆全国】



<中学校・数学> 【▲三重県 ◆全国】



2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

（１）児童生徒質問紙調査に関する結果から特に大切にしたいもの

＊ 以下の項目の中で国、県の調査が行われなかったものについては、結果の数値は無く、「－」と表記しております。

①家庭学習への取組（肯定的な回答）

計画的に学習をしている児童生徒については、小学校は、三重県平均を下回っているものの、数値は上がっています。中学校は全国平均、三重県平均を大きく上回っています。学校での指導と児童生徒の意識の高さが伺えます。今後も学習へ向かう気持ちと同時に、計画性にも期待をしているところです。

鳥羽市において１時間以上家庭学習している児童の割合は、大きく下がっています。保護者・教師等、周りの大人も関わりながら計画的に過ごすことで、家庭学習の機会をしっかりと確保することにつながり、今後の学力向上を期待できると思います。１時間以上学習する中学生の割合は大きく伸びています。学習に向かう気持ちの表れだといえます。学習時間を増やしていくことが、今後の課題といえるでしょう。

（質問：小・中１７）家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	76.4	64.6	66.4
三重県	71.7	63.0	72.8
全 国	71.5	－	74.0

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	43.5	49.3	70.0
三重県	52.6	57.1	65.0
全 国	50.4	－	63.5

（質問：小・中１８）家庭学習の時間（１時間以上）

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	76.3	65.5	48.7
三重県	64.2	67.1	59.6
全 国	66.1	－	62.5

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	66.4	52.1	79.2
三重県	67.5	46.3	73.3
全 国	69.8	－	75.9

② 自尊感情（肯定的な回答）

小学校・中学校ともに、「自分にはよいところがあると思う」という項目は大きく下がり、三重県平均・全国平均を下回っています。「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合は、小学校で減少、中学校で微増です。

地域の行事に参加する児童生徒の割合は、中学校では大きく伸び、全国平均・三重県平均と比較しても非常に高い水準です。小学校において減少していますが、全国平均・三重県平均より非常に高い水準にあります。

これまでも取り組んでいただいておりますが、今後もさらに、学校生活の中で、また地域の中においても、子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、評価したり声かけをしたりしていくことが大切だといえます。また、子どもたちがお互いに認め合う機会など、様々な場面において意識して取組ことも大切ではないかと考えます。

（質問：小・中6）自分にはよいところがあると思う。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	74.0	81.0	72.3
三重県	80.1	79.1	76.0
全 国	81.2	－	76.9

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	70.9	82.0	66.9
三重県	74.9	79.1	77.5
全 国	74.1	－	76.2

（質問：鳥羽市アンケート）

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	79.5	88.1	93.0
三重県	87.8	86.8	－
全 国	86.1	－	－

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	79.4	81.2	97.7
三重県	83.1	87.1	－
全 国	81.5	－	－

（質問：小・中13）将来の夢や目標を持っていますか。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	81.1	75.5	79.0
三重県	82.6	78.7	79.7
全 国	83.8	－	80.3

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	64.2	64.6	67.7
三重県	69.5	69.4	70.3
全 国	70.5	－	68.6

(質問：小・中２４) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	77.9	75.4	70.6
三重県	74.1	71.1	65.7
全 国	68.0	—	58.1

中学校	H31	R2	R3
鳥羽市	61.9	59.1	73.1
三重県	56.8	54.4	52.5
全 国	50.6	—	43.7

③ 国語・算数・数学が「好き」(肯定的な回答)

鳥羽市内において、国語、算数・数学を好きと答えた児童の割合は大きく減少しています。中学校においては「国語の勉強が好き」と答えた割合が減少しました。学力の向上のためにも、学習の楽しさを味わえる授業の展開が大切だといえます。

(質問：小５２) 国語・算数の勉強は好きですか。

小学校国語	H31	R2	R3
鳥羽市	56.7	60.0	46.2
三重県	61.6	60.6	56.1
全 国	64.2	—	58.4

小学校算数	H31	R2	R3
鳥羽市	59.0	70.0	60.5
三重県	70.1	69.5	69.9
全 国	68.6	—	67.8

(質問：中５２) 国語・数学の勉強は好きですか。

中学校国語	H31	R2	R3
鳥羽市	64.1	57.0	45.4
三重県	60.7	61.6	61.0
全 国	61.7	—	60.8

中学校数学	H31	R2	R3
鳥羽市	49.7	53.5	47.7
三重県	60.2	64.0	59.2
全 国	57.9	—	59.1

④ 国語，算数・数学，英語は，よく分かる（よく分かると回答）

鳥羽市内において，よく分かると回答した児童は，ほぼ横ばいが続いています。中学校においても増減を繰り返しています。「よくわかる」と「どちらかといえば，よくわかる」をあわせると８０％ほどになります。２０％の子は「わかる」と答えられないともいえます。

児童生徒一人ひとりが「よくわかった」と思える時間を意識した授業づくりを大切にしたいと考えています。

（質問：小・中４５，５４，鳥羽市アンケート）

国語，算数・数学，英語の授業の内容は，よく分かりますか

小学校国語	H31	R2	R3
鳥羽市	33.1	45.9	35.3
三重県	42.4	－	39.6
全 国	41.2	－	39.5

小学校算数	H31	R2	R3
鳥羽市	40.2	45.9	44.5
三重県	51.2	－	53.8
全 国	49.3	－	51.6

中学校国語	H31	R2	R3
鳥羽市	38.2	46.3	25.4
三重県	32.0	－	35.7
全 国	28.4	－	31.5

中学校数学	H31	R2	R3
鳥羽市	32.8	48.3	40.0
三重県	39.3	－	37.1
全 国	34.8	－	35.6

中学校英語	H31	R2	R3
鳥羽市	32.1	38.9	39.2
三重県	32.1	－	－
全 国	29.5	－	－

(2) 学習のめあて・ふりかえりと、鳥羽市として大切にしたい10個の項目について

① めあてと振り返りについて

小学校・中学校ともに、学校での取組の積み重ねにより、「めあて・ふりかえり」についての肯定的回答は多くなっています。「めあて」と「ふりかえり」を結び付けて、分かったことを明確に伝え合ったり、書いたりすることにより、よりよい理解につなげていくことが大切だといえます。

(質問：鳥羽市アンケート)

授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

小学校	H31	R2	R3
鳥羽市	88.5	94.5	93.9

中学校	H30	H31	R3
鳥羽市	95.5	95.4	99.4

(質問：鳥羽市アンケート)

学習活動を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

小学校	H30	H31	R3
鳥羽市	89.0	76.9	89.3

中学校	H30	H31	R3
鳥羽市	91.8	92.4	98.2

② 鳥羽市として大切にしたい10個の項目について

昨年度に比べて、テレビ・ゲーム・スマートフォンの使用時間は、増加傾向にあります。25～40%弱の児童生徒は、これらに3時間程度を費やしています。教育のICT化が進んでいきますので、これからは特に、情報モラル教育などの機会をとおして、粘り強く指導にあたる必要があります。

家庭学習の時間は、減少傾向が続いています。放課後や休日の時間の使い方を確かめながら、学習に充てる時間を確保していく必要があります。

「いじめはどんな理由があってもいけない」と思わない児童生徒が5%ほどいます。鳥羽市のすべての大人が、このことを常に意識して子どもたちを見守ることが大切です。

質問⑧⑨⑩（教師や子どもが課題を設定して取り組む学習や話し合いの活動について）の小中ともにポイントの増減が見られます。それぞれ低い項目でも70%以上の児童生徒が肯定的な回答をしていることから、活動のねらいを自覚させることにより、効果が上がっていくのではないかと考えられます。そうすることで、話し合い活動とその結果を発表する活動が、より活発に行われるようになっていくと考えられます。質問⑧⑨⑩では、自ら考え、自分から取り組んでいたかどうか問われています。自ら取り組むことにより、よりよい学習効果が期待できます。

鳥羽市として大切にしたい１０個の項目の経年変化
(経年変化) 小学校

	質問項目		H31	H31→R2	R2	R2→R3	R3	H31→R3
①, ②, ③については、低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (３時間以上)	本市	20.0	↓	32.4	↓	34.6	
		全国	-		-		-	
		全国との差	-		-		-	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(３時間以上)	本市	26.2	↑	22.5	↓	38.7	-
		全国	-		-		29.0	
		全国との差	-		-		-9.7	
③	平日のスマホの通話やメール、学 習以外のインターネットの使用 (３時間以上)	本市	5.4	↓	6.3	↓	26.0	+
		全国	-		-		-	
		全国との差	-		-		-	
④	平日の学習時間 (１時間以上)	本市	76.3	↓	65.5	↓	48.7	-
		全国	66.1	県	67.1	全国	62.5	
		全国との差	10.2	県との差	-1.6	全国との差	-13.8	
⑤	休みの日の学習時間 (１時間以上)	本市	63.0	↑	68.5	↓	47.0	-
		全国	-		-		61.0	
		全国との差	-		-		-14.0	
⑥	平日の読書時間(30分以上)	本市	36.2	↑	40.9	↓	30.3	-
		全国	39.8	県	38.8	全国	37.4	
		全国との差	-3.6	県との差	2.1	全国との差	-7.1	
⑦	いじめはどんな理由があってもい けないと思う。	本市	95.3	↑	98.2	↓	97.5	+
		全国	97.1		-		96.8	
		全国との差	-1.8	↓	-		+0.7	
⑧	5年生までに受けた授業では、先 生から示される課題や、学級やグ ループの中で、自分たちで立てた 課題に対して、自ら考え、自分か ら取り組んでいたと思いますか。	本市	76.9	↓	71.8	↓	71.4	-
		全国	-	県	74.4	全国	78.2	
		全国との差	-	県との差	-2.6	全国との差	-6.8	
⑨	授業では学級の友だちとの間で話 し合う活動をよく行っている。	本市	87.6	↑	90.9	↓	72.3	-
		全国	-		-		73.4	
		全国との差	-		-		-0.9	
⑩	5年生までに受けた授業では、学 級やグループの中において自分た ちで課題を立てて、その解決に向 けて情報を集め、話し合いながら 整理して、発表するなどの学習活 動に取り組んでいたと思いますか。	本市	75.4	↑	82.7	↑	91.6	+
		全国	-		-		-	
		全国との差	-		-		-	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↑は「改善・上昇」、→は「変動なし」、↓は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国(令和2年度は三重県平均)との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の＋・－は、「本市の割合」の変位を表し、＋は「改善・上昇」、－は「下降」を表す。

(経年変化) 中学校

	質問項目		H31	H31→R2	R2	R2→R3	R3	H31→R3
①, ②, ③については、低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	15.9	↘	21.5	↘	24.5	＋
		全国	－		－		－	
		全国との差	－		－		－	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	21.2	↘	25.5	↗	25.4	－
		全国	－		－		32.3	
		全国との差	－		－		－6.9	
③	平日のスマホの通話やメール, 学習以外のインターネットの使用 (3時間以上)	本市	15.1	↗	10.7	↘	26.9	＋
		全国	－		－		－	
		全国との差	－		－		－	
④	平日の学習時間 (2時間以上)	本市	29.0	↗ 県	44.5	↘ 全国	37.7	＋ C
		全国	35.5		45.3		41.8	
		全国との差	－6.5		－1.2		－4.1	
⑤	休みの日の学習時間 (2時間以上)	本市	62.1	↘	45.6	↗	49.2	－
		全国	－		－		53.5	
		全国との差	－		－		－4.3	
⑥	平日の読書時間 (30分以上)	本市	19.0	↗ 県	26.4	↘ 全国	23.9	－ A
		全国	27.0		25.8		28.9	
		全国との差	－8.0		0.6		－5	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	本市	95.4	↘	87.5	↗	96.2	－
		全国	95.1		－		95.9	
		全国との差	0.3		－		＋0.3	
⑧	1・2年生の時に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	本市	79.5	↘ 県	67.4	↗ 全国	85.3	－ C
		全国	－		73.0		81.0	
		全国との差	－		－5.4		＋4.3	
⑨	授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っている。	本市	89.3	↘	87.5	↘	72.3	－
		全国	－		－		73.9	
		全国との差	－		－		－1.6	
⑩	1・2年生の時に受けた授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	本市	77.3	↘	72.9	↗	93.0	－
		全国	－		－		－	
		全国との差	－		－		－	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↗は「改善・上昇」、↘は「変動なし」、↙は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国(令和2年度は三重県平均)との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の＋・－は，「本市の割合」の変位を表し，＋は「改善・上昇」，－は「下降」を表す。